

# 通機 会 だ よ り

## 第 43 号

平成 30 年 5 月 発行

通機 会 Web ページ

<http://www.tsukikai.mce.uec.ac.jp/>



通機 会 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/uec.tsukikai>



### 第 10 回通機 会 総 会 開 催 の ご 案 内

通機 会 会 長 危 険 物 保 安 技 術 協 会  
山 田 實 (1976 年 卒)

昨 年 末 か ら の 記 録 的 な 低 温 と 大 雪 に も か か わ ら ず、日 本 全 国 の ほ と ん ど で 例 年 よ り 早 い 桜 の 開 花 と な り ま し た。通 機 会 会 員 の 皆 様 に お か れ ま し て は、新 年 度 ・ 新 学 期 を 迎 え ら れ、い か が お 過 ぎ し で し ょ う か。

本 年 は 通 機 会 会 則 に 従 い ま し て 4 年 に 一 度 の 総 会 開 催 の 年 と な り、併 せ て 第 10 期 の 会 長、副 会 長 及 び 役 員 の 改 選 の 年 に あ た り ま す。つ き ま し て は、第 10 回 通 機 会 総 会 開 催 の ご 案 内 を 申 し 上 げ ま す。

私 も 平 成 26 年 6 月 の 第 9 期 総 会 に て、会 長 職 を 拝 命 い た し ま し た。ま ず は、通 機 会 会 員、幹 事 及 び 役 員 の 皆 様 の こ の 4 年 間 の 多 大 な る ご 協 力 に 深 く 感 謝 申 し 上 げ ま す。第 9 期 の 前 会 長 か ら 通 機 会 の 運 営 資 金 (機 械 系 の 新 入 生 か ら の 入 会 金) の 確 保 を 申 し 受 け ま し た が、幹 事 及 び 役 員 の 皆 様 か ら の 貴 重 な ご 意 見 を い た だ い た に も か か わ ら ず、根 本 的 な 解 決 策 を 見 だ せ ない ま ま、4 年 が 過 ぎ ま し た こ と を 会 員 の 皆 様 に 大 変 申 し 訳 な く 感 じ て お り ま す。

こ の 4 年 間 に お い て、自 然 災 害 と し て、2015 年 関 東 ・ 東 北 豪 雨、2016 年 熊 本 地 震、2017 ・ 2018 年 低 温 ・ 大 雪 が 発 生 し て 多 く の 方 々 が 被 害 に 遭 わ れ て い ま す。政 治 の 世 界 で は、国 有 地 の 売 却 に 関 連 す る 政 治 家 と 官 僚 の 問 題 も 騒 が れ て お り ま す。一 方、電 気 通 信 大 学 で は、2016 年 か ら こ れ ま で の 学 部 ・ 学 科 が 見 直 さ れ、情 報 理 工 学 域 と 3 つ の 類 に 改 組 さ れ ま し た。ま た、2018 年 12 月 8 日 に は

電 気 通 信 大 学 創 立 100 周 年 を 迎 え、2017 年 3 月 に 100 周 年 キ ャ ン パ ス “UEC Port” が 整 備 さ れ、今 後 益 々、電 気 通 信 大 学 の 活 躍 が 期 待 さ れ て い ま す。こ の よ う な 状 況 に お い て、通 機 会 と し て も、会 則 第 2 条 に あ る 「本 会 は 会 員 の 連 絡 と 親 睦 を は か る こ と を 目 的 と す る」 こ と に、会 員 皆 様 の さ ら な る ご 支 援 を お 願 い 申 し 上 げ ま す。

最 後 に な り ま し た が、こ の 4 年 間 で は、通 機 会 の 運 営 に 関 し ま し て、学 内 幹 事 の 先 生 方 に 多 大 な る 負 担 を お か け し て お り、先 生 方 の ご 尽 力 に よ り 通 機 会 が 成 立 し て い る こ と を 痛 感 い た し ま し た。こ こ に 感 謝 申 し 上 げ ま す。

### 第 10 回通機 会 総 会 の ご 案 内

開 催 日：平 成 30 年 6 月 30 日 (土)

(1) 第 10 回 通 機 会 通 常 総 会

時 間：14:00 ～ 14:45

場 所：電 気 通 信 大 学 東 5 号 館 241 教 室

(2) 特 別 講 演 会

時 間：15:00 ～ 16:30

場 所：電 気 通 信 大 学 東 5 号 館 241 教 室

講 演 ①：船 戸 徹 郎 准 教 授

「動 作 解 析 と 力 学 モ デ ル に 基 づ く ヒ ト と 動 物 の 運 動 制 御 系 へ の ア プ ロ ー チ」

講 演 ②：澤 田 賢 治 准 教 授

「制 御 シ ス テ ム セ キ ュ リ テ ィ：制 御 工 学 で 機 械 シ ス テ ム を 守 る 事 は 出 来 る の か？」

(3) 懇 親 会

時 間：17:00 ～ 19:00

場 所：電 気 通 信 大 学 大 学 会 館 2 階 生 協 食 堂

会 費：7,000 円 (学 生 は 無 料)

通機 会 だ よ り 第 43 号 の 主 な 内 容

- 第 10 回 通 機 会 総 会 開 催 の ご 案 内 … 1、退 職 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ … 2、新 任 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ … 2、
- 第 31 回 田 中 榮 賞 受 賞 者 … 4、UEC 生 涯 メール シ ス テ ム の ご 案 内 … 5、学 内 情 報 こ の 一 年 … 5、
- 通 機 会 会 計 報 告 お よ び 就 職 ・ 進 学 状 況 … 6 ほ か

## 退職教員からの メッセージ キャンパス回想

機械知能システム学専攻 元教授 新谷 一人

私本学に着任して35年が過ぎました。着任当時は、機械工学科、機械工学第二学科の時代。短大も健在でした。当時はP棟が東地区で一番高かったのではないかと。P棟と並んで建っていた旧M棟はすでにかなり老朽化していました。本学に着任する前にいた大学や研究所の建物もかなり古く、大学の建物は年代物という先入観があったのでそれほど驚きはなかったのですが、その後、本学や他大学の建物の建て替えが次々と行われていくのを見ると単に建て替えが遅れていただけだったということがわかります。当時は教室も不足しており、修論発表会のためにP棟1階の教室を利用できない場合には旧図書館の部屋を借りて行っていたことを思い出します。すり鉢状の教室が入っていた旧C棟も改築されて新C棟になり、大きな教務課の掲示板が敷設されてその前が広々として広場になりました。この広場、昼休みにはジャグリングサークルの演技で盛り上がっています。生協は図書館前の学生会館に移りましたが、以前、生協関連の建物は東地区北側にあり、生協食堂、購買部、その上に喫茶店のリサと理髪室が入っていました。考えてみると、当時、西地区の方々は、生協を利用するのにかなりの距離を歩いていたのです。西地区にも食堂と購買はありましたが、別の業者さんだったかと。東食堂のメニューに飽きると、西食堂へ行き、しばらくすると、また、もとに、を繰り返しました。思い出されるのが、生協購買部近くの北門。夜な夜なスケボー少年がこの北門から入ってきてキャンパス内でスケボーの練習をするものだから、ある時期から閉められてしまいました。あの北門、なかなか便利だったのですが。

あらためて東キャンパスを見渡してみると、東1、3、4、6号館の4棟は東地区高層化の象徴であり、私が着任したころの面影を残す低層の建物は保険管理センターほか東地区北側の建物だけになっていることがわかります。西のほうに目をやると、西6、7、8、9、10、11号館、体育館が新しく建

てられ、西2号館の耐震工事が行われ、敷地めいっぱいには高層の建物が並んでいます。西キャンパスのほうははるかに高層ビルが密集しており、ビル風も西のほうははるかに強く吹いています。東西キャンパスは長期計画の下に新棟建設、耐震化が連続して行われてきました。一方で、緑地は少なくなっていました。旧体育館前の桜が学内でもっともはやく開花していましたが、その桜の木も一部を除いて新体育館建設の際に切られてしまいました。昔は、‘武蔵野の森の面影を残すキャンパス’というのが着任した教員が書く定番のフレーズでしたが、もうこのフレーズを使うことは難しくなっていました。これから本学のキャンパスはどのように変化していくのでしょうか。

思いつくままにキャンパスの記憶を綴りました。最後になりますが、長い間いろいろとありがとうございました。本学の今後のご発展をお祈り申し上げます。

## 新任教員からの メッセージ

### 新任のご挨拶

機械知能システム学専攻 准教授 守 裕也



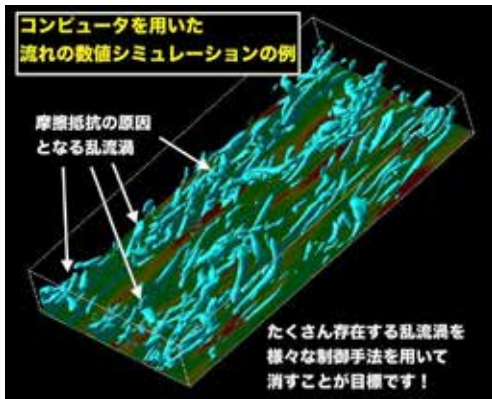
2018年3月に着任いたしました守裕也（まもり ひろや）と申します。慶應義塾大学にて博士号取得後、ポストドクター・特任助教として3年間を東京農工大学、その後3年間を嘱託助教として東京理科大学にて研究・教育活動を行い、この度御縁があって電気通信大学の准教授として着任いたしました。

私の専門は流体工学の一分野であります乱流制御でございます。身の回りの流れの多くは乱れた状態である乱流になっています。流れが乱流状態になりますと壁面と流れの間に大きな摩擦抵抗が生じ、例えば航空機やパイプラインの輸送などで効率的なエネルギー利用の観点から問題視されてい

るのが現状です。工学的にはこの乱流状態を弱める事は大変重要であり、また理学的にも乱流状態は複雑な非線形現象の上に成り立っている事から古くより注目されております。

私の主たる研究は、計算機の中で乱流を再現し、様々なアイデアをもとに効率的かつ効果的にこの乱流状態を低減する手法の提案・検証です。近年の計算機の発達により、実験では捉える事が出来なかった乱流場の詳細を取得することが容易となりました。これまでに私は摩擦を著しく減らすことのできる再層流化制御手法について研究をして参りました。本学ではそれらを基礎に、より効果的かつ実用的な制御手法の提案・確立を目指した研究に取り組んで参ります。

本学着任後、好奇心が強く且つ優秀な学生に囲まれ沢山の刺激を受け、精進の日々を過ごしております。学科のさらなる発展と人材育成に微力ながら貢献できるよう励みますので、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。



## 新任のご挨拶

機械知能システム学専攻 助教 新竹 純



2018年3月付けで着任いたしました新竹純と申します。通機会の皆様に本文をおかりしてご挨拶申し上げます。

私は茨城県つくば市の生まれで2009年に本学知能機械工学科より学士号を、2011年に知能機械工学専攻より修士号をそれぞれ取得したところまでは良かったものの、当時のリーマン・ショックのせいか就職活動が上手

くいかず、研究への興味もあったのでスイスに高飛びしました。時は流れて2016年にスイス連邦工科大学ローザンヌ校より博士号を取得し、同大学で博士研究員をしていたのですが、文科省の研究助成事業に採択されたことを機に本学へ戻ってくる形となりました。

学士課程では歯車測定機の研究、修士課程では水中ロボットの研究を下条誠先生と明愛国先生の研究室で行い、両先生方には大変お世話になりました。博士課程と博士研究員ではエラストマー(シリコンゴム)を用いたアクチュエータ、センサおよびロボットの研究を行ってきました。ゴムはありふれた材料ですが電圧や空気圧で動きますし、逆に電圧を読めば動きを検出できます。これをロボットに用いると、例えば柔らかくて生物のような、機械的により安定で安全なシステムが期待できます。今後も引き続きエラストマーを用いた要素とロボットの研究を行いたいと考えています。

日本を出てから7年近くが経っており、本学構内のみならず調布駅周辺も大きく変わったように感じます。新しいお店ができて、線路は地中にあります。在学時に“ホーム”だった駅南の日本居酒屋、やきとり川上は残念なことに閉店しました。私自身も、スイスの厳しい自然のなせる業か、頭の風通しが良くなり変化を痛感しております。今年2018年は創立100周年という節目でもあり、私も自己研鑽に励みつつ教育・研究・運営活動を通して本学のより一層の繁栄に貢献していく所存です。通機会の皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



エラストマー材料を用いたロボットとセンサ

## 第31回田中栄賞 受賞者

平成29年9月

阪本 篤志 (課程博士 (工学))

「On-Off 入力を用いた宇宙機の非線形姿勢制御への MPC の適用に関する研究」

(指導教員：田中一男教授)

Gibran de Jesus Benitez Garcia (課程博士 (工学))

「Analysis of Difference Between Western-Caucasian and East-Asian Basic Expressive Faces for Automatic Facial Expression Recognition (顔表情自動認識における西洋人と東洋人の基本的表現の違いに対する分析)」(指導教員：金子正秀教授)



平成30年3月23日に行われた授与式の様子

### 田中栄賞受賞にあたり

知能機械工学専攻 阪本 篤志

この度は博士(工学)の取得に加え、荣誉ある田中栄賞を授与して頂き、誠にありがとうございます。通機会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は平成17年に電気通信大学知能機械工学科に入学いたしました。そして学部4年から大学院博士前期課程、大学院博士後期課程と木田研究室にて宇宙機を対象とした制御理論に関する研究を行いました。博士前期課程修了後は一度社会に出ましたが、納得のいくまで研究をやりきりたいとの思いから再び木田研究室に戻り博士後期課程へと進学しました。博士課程の研究では所定の期間で思っていた成果が出せず、一年半会社に勤めながら博士論文を書き上げました。紆余曲折ありましたが、私がここまでたどり着くことが出来たの

も木田隆先生、長塩知之先生(故人)、山口功先生(防衛大学校)、池田裕一先生(湘南工科大学)の手厚いご指導、ご支援のおかげであると心より感謝申し上げます。また、研究生活では多くの研究室のメンバーに恵まれ贅沢な環境で研究を進めることが出来ました。研究で培った知識だけでなく、これら研究を通じて知り合うことのできた皆様との縁も大切にしながら今後も精進していけたらと思います。

最後になりましたが、お忙しい中学位論文の審査委員をお引き受け頂いた田中一男先生、明愛国先生、金子修先生、小木曾公尚先生、田中基康先生、及び関係者の皆様のご協力、ご支援に厚く御礼申し上げます。

### 田中栄賞を受賞して

知能機械工学専攻 Gibran Benitez-Garcia

It is a great honor for me to receive the Tanaka Sakae prize for obtaining the PhD degree from the Graduate School of Informatics and Engineering of UEC. I would like to thank Prof. Koichi Morishige and everyone on Tsuuki-kai for this honor. Also, I deeply appreciate this space where I can express my gratitude to those who helped me on this journey.

My life as PhD student started back in October 2014 when I received the Monbukagakusho scholarship from MEXT. This scholarship was given to me thanks to the promotion of Prof. Masahide Kaneko who was my supervisor when I first came to Japan as an exchange student from April 2012 to March 2013. Prof. Kaneko generously supported and guided me for three years until I obtained my PhD degree. Frankly speaking, I can't properly express my gratitude and admiration to him. Prof. Kaneko has taught me all the necessary to not only obtain my degree but also to follow a research career which I would like to nourish for finally becoming a professor in my home country Mexico.

I want to extend my gratitude to Prof. Suwako Uehara and all the members of Self Access Park (English support center at UEC), especially to Prof. Hiroaki Oku. I have great memories working with him as a teacher assistant. This part-time job gave me

skills on how to help students with their English needs and made my days at UEC more memorable.

Finally, I have to mention that thanks to all the skills and knowledge obtained through my PhD life, I am working now as a postdoctoral fellow in the Intelligent Information Media Laboratory at Toyota Technological Institute in Nagoya, Japan. I would like to end these lines by saying that I will always feel part of the University of Electro-Communications and I will never forget its Unique and Exciting Campus.

## ◇UEC 生涯メールシステムのご案内◇

大学の卒業・修了生および退職教職員の皆様に、「@ mail.ucc.jp」ドメインの「UEC 生涯メールアドレス」を無料で提供をしております。

### 【特徴】

- ① mail.ucc.jp ドメインのメールアドレス (xxxx@mail.ucc.jp) を提供します。
- ② 利便性やセキュリティ対策を考慮して、常用されているメールアドレスへの転送方式としています。
- ③ 異動や転職などでメールなどの受信環境が変わっても、生涯にわたって同一の ucc アドレスでメールを受け取ることができます。

### 【利用方法の一例】

- ① UEC 生涯メールシステムに登録・公開されているメーリングリスト (ML) に登録して、電気通信大学に関係する最新の情報を入手することができます。
- ② 様々なグループ (同期会、研究室 OB 会、サークル OB 会、企業内電通大出身者の集いなど) の連絡網に UEC 生涯メールアドレスを利用すれば、メンバーが異動しても常に連絡が保つことができます。
- ③ 名刺などに記載することにより、ご自身のメール環境が変わっても、UEC 生涯メールアドレスを伝えた相手からの連絡を維持することができます。
- ④ ご利用中のインターネットプロバイダに、他ドメインのメールアドレスによるメール発信を認めるサービスがある場合は、UEC 生涯メールアドレスからのメールの発信が可能となります。
- ⑤ UEC 生涯メールシステムに特定テーマの ML を登録・公開して、ML の発信者となることができます。(所定の手続きが必要ですので、UEC 生涯メール窓口にご相談ください)
- ⑥ 公開 ML を使わず、個々にメンバーを集めたい場

合 (例えば、同期会の案内など) は、UEC 生涯メール HP に情報を掲示することができます。

通機でも、UEC 生涯メールサービスを連絡手段の一つとして利用することを検討しており、既に「通機からのお知らせ」という生涯メールアドレス用のメーリングリストを用意しております。多くの方がアドレスを取得され、積極的に活用いただくことを願っています。登録は下記のホームページの「新規お申し込み方法」から行えます。

生涯メールホームページ

URL : <http://www.ucc.ac.jp/ucc-mail/>



## ◇◇◇ 学内情報この一年 ◇◇◇

### 1. 教職員の異動など

平成 30 年 1 月 1 日

秋田 学 助教 准教授に昇任  
船戸徹郎 助教 准教授に昇任

平成 30 年 3 月 1 日

守 裕也 准教授 東京理科大学より転入  
新竹 純 助教 採用 (明研究室)

平成 30 年 3 月 31 日

新谷一人 教授 定年退職  
前川 博 教授 定年退職

### 2. 卒業生と新入生の記録

平成 29 年 9 月 29 日 9 月期修了

大学院情報理工学研究科  
知能機械工学専攻 博士後期課程 2 名

平成 29 年 10 月 2 日 10 月期入学式

大学院情報理工学研究科  
機械知能システム学専攻 博士前期課程 2 名  
博士後期課程 4 名

平成 30 年 3 月 23 日 卒業式

情報理工学部 知能機械工学科 156 名  
大学院情報理工学研究科  
知能機械工学専攻 博士前期課程 2 名  
機械知能システム学専攻 博士前期課程 93 名

平成 30 年 4 月 5 日 入学式

情報理工学域  
昼間コース 722 名  
夜間主コース (先端工学基礎課程) 31 名  
大学院情報理工学研究科  
機械知能システム学専攻 博士前期課程 119 名  
博士後期課程 10 名

xx

ー編集係よりー

会員の皆様からの記事を募集しております。卒業生から現役学生へのメッセージなどもお寄せいただければ幸いです。ぜひ下記宛先までお送り下さい。

〒 182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1  
電気通信大学 機械知能システム学専攻内  
通機会だより担当 森重